

ココが変わるよ！ みんなの周りの上下水道

熊本地震から1年、上下水道施設の復興とこれからの災害対策について、現在どんな施策が行なわれているのか紹介します！

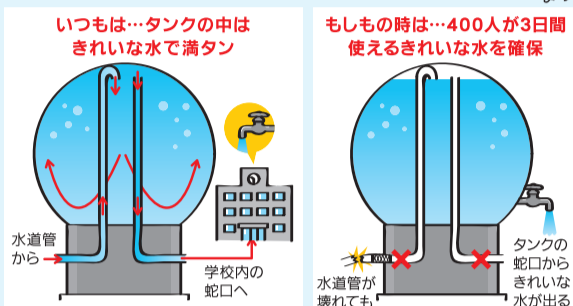
災害用給水タンク

災害用給水タンク（貯水機能付給水管）は、平時は通常の給水管ですが、地震等災害の断水時はタンクの容量分4m³の水道水が確保され非常用の飲料水として利用できます。平成28年度末現在、市内に32基設置していますが、応急給水用として利用できるのは現在4基です。そこで、28基の給水タンクについては、平成30年度末までに蛇口が増設できるようにする等の応急給水仕様への改造を行っていきます。なお、教育委員会にて平成29年度以降も順次新設していく予定です。

私の学校でも見たことある



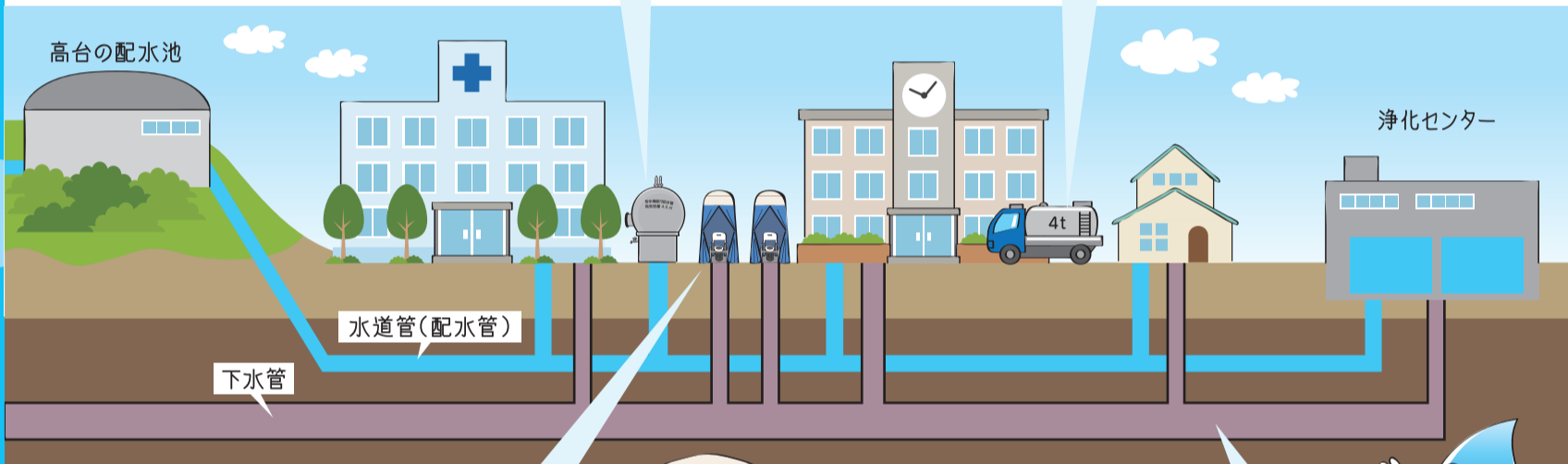
この中ってどうなってるの？



常にきれいな水が蓄えられるようになっているんだ

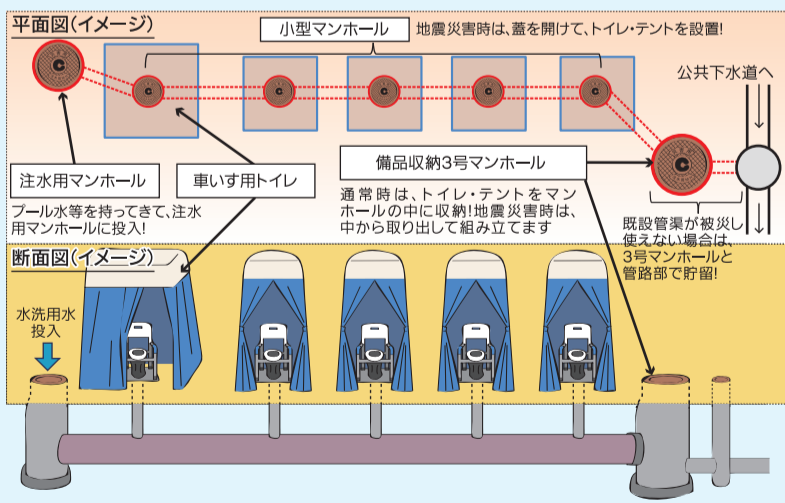
大型給水車も配備されるよ

一度にたくさん水を運べるように大型の「4t給水車」を導入します



～循環のみち下水道賞受賞～ マンホールトイレの整備

上下水道局では、避難所を対象にマンホールトイレの整備を行っています。

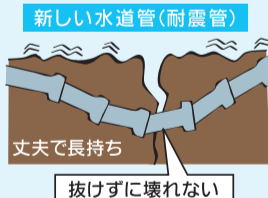


上下水道管の耐震化

配水池⇔避難所・医療拠点⇔浄化センター

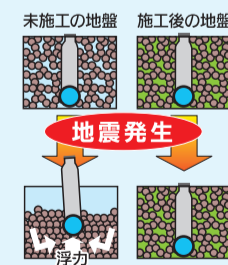
【上水道・下水道の取り組み】

災害時には、ライフラインの確保と医療活動や物資輸送が重要となります。道路の上下水道管が破損すると、道路陥没などの被害が発生し、輸送活動などに支障をきたすとともに、医療拠点や避難所での上下水道の使用ができなくなります。そのため、国道などの主要な道路に埋設されている上下水道管と、配水池から医療拠点や避難所などに至る上下水道管及び医療拠点や避難所などから浄化センターをつなぐ下水道管について、優先的に耐震化を行っています。今後も、熊本地震の経験を踏まえ、継続して耐震化事業を実施していきます。



マンホールの浮上防止

地中に多く存在する隙間が、地震の揺れで埋まり、下水道とマンホールの下部に滞り込むことによって発生する浮力が原因。このため、マンホール周辺の地盤の改良や、マンホール自体を重くして浮力に対抗する等の方法で、震災時の浮上を防止します。



熊本市上下水道事業震災復旧復興計画

～「安心」・「強靱」・「持続可能」な上下水道の構築～

詳しくは下のURLで計画案を公開しています

http://www.kumamoto-waterworks.jp/?waterworks_article=19001

上水道・工業用
水道施設の
早期復旧

下水道
施設の
早期復旧

上水道・工業用
水道施設の
耐震化

下水道
施設の
耐震化

災害時
対応力の
強化